



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年2月5日

上場会社名 東部ネットワーク株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9036 URL <http://www.tohbu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 芦原 一義
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務兼専務執行役員 (氏名) 三澤 秀幸 TEL 045-461-1651
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	9,572	0.1	1,013	60.4	1,066	58.4	720	64.5
27年3月期第3四半期	9,567	1.3	631	△2.4	673	△1.7	437	1.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	133.00	—
27年3月期第3四半期	80.25	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	20,844	16,279	78.1
27年3月期	19,804	15,619	78.9

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 16,279百万円 27年3月期 15,619百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
28年3月期	—	7.50	—		
28年3月期（予想）				7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成28年3月期の業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,110	1.4	898	2.4	949	2.6	669	1.6	123.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年3月期3Q	5,749,000株	27年3月期	5,749,000株
28年3月期3Q	333,878株	27年3月期	333,878株
28年3月期3Q	5,415,122株	27年3月期3Q	5,454,862株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料（第3四半期決算説明資料）は、当社ホームページに同日掲載しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間のわが国経済は、中国経済の減速が続き、新興国や資源国経済も悪化しておりますので輸出が停滞し、さらに円安による原材料価格の高騰で個人消費の回復が鈍く、足踏み状態の景気となり、不透明感が強まっております。

当貨物自動車運送業界におきましては、ネット通販の宅配品が堅調に推移しておりますが、一方で季節商材が暖冬で低迷し、公共投資の大幅な減少等もあり、貨物総輸送量は減少し、加えて人件費が高止まりしておりますので、厳しい収益状況となっております。

当社はこのような状況下、同業他社との業務提携による事業の伸張や、ビールメーカー等との取引の拡大により、新規制緩和トレーラー車(飲料等輸送車)を増車し、輸送能力を大幅に向上させると共に、省エネ化やCO₂削減効果も発揮いたしましたので、荷主からも評価を受けることができました。

(尚、平成27年10月30日から行われました第44回東京モーターショーに当社ロゴマーク付きの新規制緩和トレーラー車が出展されました。)

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は9,572,733千円(前年同期比0.1%増)、営業利益は1,013,060千円(前年同期比60.4%増)となり、経常利益は1,066,579千円(前年同期比58.4%増)、四半期純利益は720,206千円(前年同期比64.5%増)となりました。

セグメントの業績につきましては次のとおりです。

(貨物自動車運送事業)

・第1営業部門

清涼飲料輸送は、荷主が自社の世界標準システムを導入し、合理化と在庫圧縮に力点を置いた施策を行いましたので、総輸送量が減少し減収となりました。

びん・容器輸送は、食品メーカー等がペットボトルや紙容器等の軽量化を進めておりますので、国内生産は減産体制となり、輸送量が減少し採算重視の輸送体制を継続し、減収となりました。

新輸送システム等は、ビールメーカー等が新製品の大量出荷を行いましたことに加え、年末の繁忙期とも重なり、大幅な増収となりました。

この結果、第1営業部門の売上高は前年同期比5.9%減となりました。

・第2営業部門

石油輸送は、歴史的な原油安で、輸送量が増加傾向にありますが、暖冬で灯油輸送が減少し、減収となりました。

化成品輸送は、国内の汎用樹脂需要が底堅く推移し、輸送量が増加し増収となりました。

セメント輸送は、大型基幹道路工事等の公共工事が一段落し、関東・東北豪雨災害により東北地域に応援要請があり、年末迄対応いたしました。減収となりました。

その他輸送は、小型車の専属車が減車となり減収となりましたが、新規の牛乳輸送が増加いたしましたので増収となりました。

この結果、第2営業部門の売上高は前年同期比2.4%減となりました。

以上から、当貨物自動車運送事業の売上高は、関連業務の荷役・保管作業収入を含め、6,859,089千円(前年同期比5.4%減)となり、セグメント利益は820,003千円(前年同期比37.5%増)となりました。

(商品販売事業)

当事業の主力販売品である石油製品は、新規取引先の増加と、既存取引先で納入油種が増加し、増収となりました。

セメント販売につきましては、納入先が関東圏から東北・北陸地域へと拡大し、販売量の増加で増収となりました。

車両販売等につきましては、大型車の販売が伸び大幅な増収、リース販売につきましては、太陽光設備等の納入で増収、ソフトウェアの販売につきましては、前期並となりました。

この結果、当事業の売上高は1,957,224千円(前年同期比24.5%増)となり、セグメント利益は16,445千円(前年同期比20.3%増)となりました。

(不動産賃貸事業)

当社の提供する各種賃貸施設のうち、自社施設の提供につきましては、テナントビルで一部空室が出ておりますが、太陽光発電による屋根貸し等により微増となりました。

借上施設の提供につきましては、厚木施設の返還により減収となりました。

この結果、当事業の売上高は693,439千円(前年同期比0.2%減)となり、セグメント利益は390,661千円(前年同期比85.2%増)となりました。

(その他事業)

自動車整備事業につきましては、ディーラー取引の拡大と、得意先自家用車の車検・整備の取込みキャンペーン等により、増収となりました。

損害保険代理業等につきましては、個人の車両保険特約等の見直しや、既存の大口契約の更新が不調となり、減収となりました。

この結果、当事業の売上高は62,979千円(前年同期比18.6%増)となり、セグメント利益は24,112千円(前年同期比27.4%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は5,828,124千円となり、前事業年度末と比べ607,465千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が191,189千円、営業未収入金が135,364千円、有価証券が200,000千円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は15,016,860千円となり、前事業年度末と比べ432,906千円増加いたしました。これは主に車両運搬具及びリース資産の計上により、有形固定資産が420,820千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は20,844,985千円となり、前事業年度末と比べ1,040,317千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は1,968,035千円となり、前事業年度末と比べ203,345千円増加いたしました。これは主に支払手形が106,418千円、未払金が103,027千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は2,597,638千円となり、前事業年度末と比べ177,570千円増加いたしました。これは主にリース債務が192,423千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は4,565,674千円となり、前事業年度末と比べ380,915千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は16,279,310千円となり、前事業年度末と比べ659,455千円増加いたしました。これは四半期純利益720,206千円及び剰余金の配当81,226千円により利益剰余金が638,979千円、その他有価証券評価差額金が20,476千円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は78.1%(前事業年度末は78.9%)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の業績予想につきましては、現時点において不確定要素が内在しているため、通期の予想数値を据え置いております。

なお、今後の業績動向を踏まえ開示の必要性が生じた場合には速やかに開示することといたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,706,963	3,898,153
受取手形	47,815	159,027
営業未収入金	1,234,046	1,369,410
リース投資資産	19,049	15,801
有価証券	—	200,000
原材料及び貯蔵品	22,071	38,490
その他	195,066	152,393
貸倒引当金	△4,353	△5,151
流動資産合計	5,220,659	5,828,124
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,114,036	3,002,215
車両運搬具(純額)	381,832	685,084
土地	7,520,861	7,520,861
リース資産(純額)	463,859	647,409
建設仮勘定	—	75,948
その他(純額)	270,298	240,189
有形固定資産合計	11,750,889	12,171,709
無形固定資産	60,832	41,186
投資その他の資産		
投資有価証券	1,192,323	1,223,563
差入保証金	1,446,357	1,448,606
その他	136,451	134,691
貸倒引当金	△2,898	△2,897
投資その他の資産合計	2,772,233	2,803,964
固定資産合計	14,583,954	15,016,860
資産合計	19,804,614	20,844,985
負債の部		
流動負債		
支払手形	121,069	227,488
営業未払金	701,433	754,142
リース債務	22,166	35,758
未払金	138,702	241,730
未払費用	173,708	244,251
未払法人税等	179,475	192,073
引当金	174,420	53,669
その他	253,714	218,922
流動負債合計	1,764,690	1,968,035
固定負債		
リース債務	468,446	660,869
繰延税金負債	1,086,331	1,088,775
再評価に係る繰延税金負債	111,591	111,591
引当金	125,778	134,323

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
長期前受金	48,167	44,006
長期預り保証金	564,160	543,018
資産除去債務	15,592	15,053
固定負債合計	2,420,068	2,597,638
負債合計	4,184,759	4,565,674
純資産の部		
株主資本		
資本金	553,031	553,031
資本剰余金	527,722	527,722
利益剰余金	14,847,707	15,486,687
自己株式	△250,259	△250,259
株主資本合計	15,678,202	16,317,181
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	379,831	400,308
土地再評価差額金	△438,178	△438,178
評価・換算差額等合計	△58,347	△37,870
純資産合計	15,619,855	16,279,310
負債純資産合計	19,804,614	20,844,985

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	9,567,327	9,572,733
売上原価	8,660,842	8,256,312
売上総利益	906,485	1,316,420
割賦販売未実現利益戻入額	459	313
割賦販売未実現利益繰入額	362	366
繰延リース利益戻入額	2,666	2,431
繰延リース利益繰入額	2,732	1,625
差引売上総利益	906,516	1,317,172
販売費及び一般管理費	275,022	304,111
営業利益	631,494	1,013,060
営業外収益		
受取利息	449	517
受取配当金	24,014	28,156
偶発損失引当金戻入益	—	13,523
その他	24,489	23,024
営業外収益合計	48,953	65,221
営業外費用		
支払利息	6,660	11,405
その他	491	297
営業外費用合計	7,152	11,702
経常利益	673,295	1,066,579
特別利益		
固定資産売却益	16,354	29,686
特別利益合計	16,354	29,686
特別損失		
固定資産除却損	0	1,027
特別損失合計	0	1,027
税引前四半期純利益	689,649	1,095,238
法人税、住民税及び事業税	235,946	347,313
法人税等調整額	15,970	27,718
法人税等合計	251,916	375,031
四半期純利益	437,732	720,206

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額 (注) 3
	貨物自動車 運送事業	商品販売事 業	不動産賃貸 事業	その他事業 (注) 1	計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,246,975	1,572,110	695,150	53,090	9,567,327	—	9,567,327
計	7,246,975	1,572,110	695,150	53,090	9,567,327	—	9,567,327
セグメント利益	596,363	13,665	210,962	18,922	839,913	△208,419	631,494

(注) 1. 「その他事業」は、自動車整備業及び損害保険代理業等であります。

2. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書計上額(営業利益)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額 (注) 3
	貨物自動車 運送事業	商品販売事 業	不動産賃貸 事業	その他事業 (注) 1	計		
売上高							
外部顧客への売上高	6,859,089	1,957,224	693,439	62,979	9,572,733	—	9,572,733
計	6,859,089	1,957,224	693,439	62,979	9,572,733	—	9,572,733
セグメント利益	820,003	16,445	390,661	24,112	1,251,223	△238,163	1,013,060

(注) 1. 「その他事業」は、自動車整備業及び損害保険代理業等であります。

2. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書計上額(営業利益)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。